

環境文教委員会

送付 19 - 10

神田駅前後の東北縦貫線工事計画の重層化を変更して
いただきたい陳情。

受付年月日 平成 19 年 9 月 4 日

陳 情 者 千代田区鍛冶町 2 - 3 - 1

たかの とき
高野 登喜

陳 情 書

(陳情の要旨)

神田駅前後の東北縦貫線工事計画の重層化を変更していただきたい陳情。

(陳情の趣旨)

このJR東日本の東北縦貫線の工事は長く、神田に住み続けているものにとって苦痛以外の何ものでもありません。

JRは「重層化はしません」と約束した筈です。

地方の方の便利と言うことに対して通過することに異論はありません。

ですから沿線の人も利用者の両者にとって、共によき解決の出来る方法があるのではないかと思います。

JRは「地下化が出来ない」の一点張りではなく、地下化以外に出来る方法を真剣に考えて欲しいのです。

世界に誇れる日本の技術と、優秀な人材を有し、日本のJRの最先端の土木技術を駆使して、後世に残る事業(工事)をしていただきたいと思います。

専門家はいか様にも凶面は引けますと言っています。“NOは無いはずです。

今、地球環境が最悪の状態である事は何人も十分に熟知しております。

都心のヒートアイランド化もこの夏の暑さのひどさも、都心に住む者にとって仕方がないでは片付けられません。

JRは造ろうとしている、この様な巨大な塀を造ってしまったら神田の街だけの問題でなく、西も北も今以上の厳しい暑さになるのです。

現在都心で新橋駅付近が一番温度が高くなったのも、品川駅付近の開発によって高層ビルが林立した為に海風が遮られてしまったのも大きな原因です。

隣の東京駅で駅ビルを壊して“風の通り道”を確保すると言うのに、神田で長さ1.6キロと言う高さ40階建のビルの10棟分を横に長く並べた程のベルリンの壁よりひどい高さ24~30mの構造物を平気で造ろうとしているのが“環境を守る企業です。”と宣伝しているJR東日本の企業体質に大きな不信を抱くのは当然の事でありましょう。

先祖から受け継いで、一生懸命神田を愛し、神田の発展を願い、住み続けている、神田っ子の私達が誇る故郷(ふるさと)「神田」が今後どのような状態になってしまうのか、実に不安と悲しさなさを強く思っております。

他に一点、もっと大事なことは、“災害に対して安全、安心を第一に守る企業”としての説明が利用する人にも、又地元の人にもただ「大丈夫です」では解決しません。

必ず起ると云われている東京直下型地震(発生しないことを望みますが)が発生した時に、最近あらゆる場所で発生している地震の時の様に、“想定外でし

た”と頭を下げるだけでは済まされない事実を企業は重く受け止めなくてはならない筈です。

私達に降りかかるあらゆる災害全部を避ける訳にはいかないとは思いますが、これ以上増加させることを回避していくことがもっとも重要な事であり必要なことと思います。

便利・経済優先のこれまでの企業の方向性は転換すべき時期です。

今一気に旧体質のゆがみが押し寄せています。企業のあるべき姿勢が問われています。

J R関係の人々が私達地元住民の立場に立った時の事も真剣に考えていただきたい。

お互いが納得し、理解出来るよい方法が必ずあると思います。

叡智をだし合って、十分に検討し、よりよい方法を出して下さい。

一私企業といっても公共性を持つJ R東日本は誇れる大企業としてのモラルとルールは守っていただきたいのです。

以上のことをぜひJ Rに進言してくださることを強く切望いたします。

今まで以上にこれからも永く住み続けられる様にそして、地下工事实現のため、千代田区長、千代田区議会議員の皆様、どうか千代田区そして神田の町の発展のために、この願いをぜひ強く後押しして頂きたく陳情いたします。

以上

平成19年9月3日

千代田区議会議長 殿